

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL.16 2010/12/24

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

## 今月号のトピックス

第16号の内容はこちらです。

### ■イベントのお知らせ

- 「住居領域学習研修会」を開催します
- 「道総研ランチタイムセミナー」に初登場！
- 旭川で「2011木製サッシフォーラム」を開催します

### ■特集 「海外における北総研の取り組み」

### ■最近の研究所の動き

- 「エコプロダクツ2010」に出展しました
- 外部への発表論文&学会発表
- 11月の依頼試験業務

### ■構造計算適合性判定センターからのお知らせ

### ■北総研からのお知らせ

- 年末・年始のお知らせ



## イベントのお知らせ



### ■【「住居領域学習研修会」を開催します】

平成23年1月7日（金）13時より、道民活動センター「かでの2・7」において「第14回住居領域学習研修会」を開催します。

この研修会は、住まい・環境教育学会と共催で開催するもので、中学・高校の家庭科の先生を対象とした住まい・まちづくりの体験型授業を提案することを目的として開催するものです。

プログラムとしては、住居領域学習のためのスライド教材「住まいと環境」の解説とスライド教材の内容に関連した授業実践例の報告となっています。

詳しくは当所ホームページをご覧ください。

<http://www.nrb.hro.or.jp/news/110107kensyuukai.html>



### ■【「道総研ランチタイムセミナー」に初登場！】

平成23年1月17日（月）12時5分より道庁1階交流広場において、北海道立総合研究機構（道総研）が毎月開催している「道総研ランチタイムセミナー」が開催され、「あなたは生き残れるか？～阪神淡路大震災に学ぶ住まいの防災対策のススメ～」をテーマに北総研が初めて登場します。

性能評価課長の南が講師となり、平成7年に発生した阪神淡路大震災を教訓に住まいの防災対策について紹介します。会場では、セミナーに合わせて防災グッズの展示を行う予定です。

ランチタイムセミナーのご案内は、道総研のホームページをご覧ください。

<http://www.hro.or.jp/knowledge/outline/post-2.html>



### ■【旭川で「2011木製サッシフォーラム」を開催します】

平成23年2月4日（金）13時より、旭川市大雪クリスタルホール・国際会議場において、林産試験場と共催で公開フォーラム「公共建築物等に木材を利用するために」（2011木製サッシフォーラム）を開催します。

平成22年10月に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（木材利用促進法）が施行され、公共建築物の木構造化、木質内外装材等の利用などの事例が増えることが予想されます。

そこで、今回の木製サッシフォーラムでは、木材利用促進法の解説、大規模木造建築物や公営住宅等の施工事例や研究成果などを、木材、木製サッシ等の木製品の活用事例を交えながら紹介します。

日時：平成23年2月4日（金） 13：00～16：30  
場所：旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場（旭川市神楽3条7丁目）  
主催：地方独立行政法人北海道立総合研究機構林産試験場・北方建築総合研究所、北海道木製窓協会

※入場は無料です。申込方法は後日HPなどでお知らせします。

=====

**特集 「海外における北総研の取り組み」**

=====

■【国際シンポジウムに出席しました】

平成22年8月11日（水）～13日（金）の3日間、韓国高陽市にある韓国建設技術研究院において開催された 4th International Symposium between Korea, Japan and China on Performance Improvement of Concrete for Long Life Span Structure（第4回韓日中国際シンポジウム長寿命建設物のためのコンクリートの性能向上2010）に参加しました。

このシンポジウムは、日本、中国、韓国の3カ国の寒冷地での建設材料を研究する大学、研究機関の研究者が集まり、今後持続可能な発展を遂げていくための社会基盤構造物の主たる材料となるコンクリートの性能向上、長寿命化を目的とした技術交流を行うものです。

シンポジウムでは、居住科学部の桂主幹が基調講演「コンクリート中の水分の役割」、谷口が一般研究発表「モルタル強度増進の温度依存性に及ぼすセメント種類の影響」を行いました。

我々の参加は3回目になりますが、他国の研究者とも交流が進む中、日常の細かな事から研究テーマに関する情報交換まで、幅広い意見交換ができました。また、シンポジウムの最終日には、京仁運河や仁川松島新都市の建設現場を見学することができ、開発事業の規模の壮大さと韓国の技術力に驚かされました。

来年のシンポジウムは、日本での開催となり、北方建築総合研究所が会場となります。3カ国の有意義な国際交流ができるよう準備を行いたいと思います。

（谷口）

※※※

## ■【国際共同研究の研究打合せに参加しました】

平成22年11月11日(木)～12日(金)の2日間、大連理工大学において外部資金活用型研究「コンクリート構造物のLCM国際標準の確立」のオープンセミナー及び研究打合せに3名が参加しました。

本研究は、日本、韓国、中国、タイ、エジプトの研究者がそれぞれの研究成果を持ち寄り、土木・建築を含むコンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関するISO原案を作成することを目的としています。

北総研は複合的な劣化の予測を担当しており、劣化に影響する気象条件下での材料内温湿度推定と、凍結融解作用による生じる劣化現象に関する報告を行いました。

すべて英語で通訳なしのディスカッションで、某2名は伝えたいことがうまく伝えられず、もどかしい思いをしたため、帰国後ひそかに英語で会話する練習をしています。

大連理工大学のトイレには紙がなく、お昼に生牡蠣を食べて「深刻な腹痛」になった某国の先生は、会議の途中で中国の先生からトイレトーパーをもらって部屋を出て行きました。やはり地元の人には常に持ち歩いているのでしょうか。

昨年からはまった本研究ですが、今回少し研究者同士の交流が進んだように感じました。  
アジア・アフリカ発の国際標準確立に向けて、いい刺激を受けながら取り組んでいきたいと思えます。

(伊庭)

※※※

## ■【ロシアで講演を行いました】

ニズニーノブゴドロ(モスクワの隣の州の州都)の日本センターから、道総研本部経由で依頼を受け、ロシアの二つの町で「日本の寒冷地仕様木造住宅建設技術」と題して講演をしてきました。

訪問先は、ペルミ市並びキーロフ市でしたが、これまで全く聞いたことのない地名でした。モスクワの郊外とのお話でしたが、ペルミ市でモスクワから東に1350km、キーロフは900kmの町です。  
いずれにしても東京から札幌以上の距離ですから、国内線でモスクワ―ペルミが約3時間、モスクワ―キーロフは2時間でした。  
現地の状況もよく分らず、手配していただいた日本センターの所長さんも、突然国内旅行の規制がかかって同行していただけない、といった状況の中で、北海道の住宅技術を中心に講演をしてきました。

ペルミでは、アバンギャルドの美術館内に30名程度の方が集まっていて、通訳を交えて1時間半ぐらいの講演でした。

それなりに質問がありましたが、相手の状況がわからない中で、通訳の方と現地の受け入れ先の方（改善という名前のあやしいコンサルタント）にどうだったかお聞きしたところ、一人も帰らなかったのも、それなりに良かったんじゃない、という感じのことを言われました。

ロシアでは、つまらないと始まってすぐにみんな帰ってしまうとのことでした。

キーロフでは、町のコンベンションに50人ほどが集まっており、こちらは建築関係者が中心でした。地元のテレビ局などが取材に来ており、きっとローカルテレビのニュースか何かになったんでしょうね。

ヒートポンプや断熱材に関してかなり専門的な質問が多く、興味を持っていただいたようです。

ただ、既にヨーロッパから相当量の情報が入ってきており、日本の住宅技術の優位性をどう示すか、簡単ではないと感じました。

講演後には、住宅建築の現状等の見学や行政機関との意見交換などを行いました。昨年と今年、極東を訪問しましたが、住宅を取り巻く現状はかなり違って見えました。ペルミは100万都市ですし、キーロフも40万都市で、住宅が不足しており年間それぞれ9,030万㎡の供給を予定しているとのことでした。

市場は有望ですが、資源と工業技術力を持つこれらの地域と、今後どう関係を築いて行くか、考える良い機会になりました。

（福島）

=====  
最近の研究所の動き  
=====

■【「エコプロダクツ2010」に出展しました】

12月9日（木）～11日（土）に東京ビッグサイトにおいて開催された「エコプロダクツ2010」に出展しました。

今回は、道内企業の省エネ性等に優れた技術や製品の販路拡大支援を目的に、一般財団法人旭川生活文化産業振興協会とともに「寒冷地ものづくりコンソーシアム」として出展し、道内企業の製品等に対するイメージ、購買意識を調査するために来場者アンケートを実施しました。

また、ブースでは、道外への販路拡大を目指す道内企業4社（あいもり株式会社、株式会社ショーワ、株式会社ソラール、株式会社ホクスイ設計コンサル）の展示を行いました。





2010年も「北方かわらばん」をご愛読いただき、ありがとうございました。

この1年を振り返りますと、4月に北総研は地方独立行政法人北海道立総合研究機構の1研究機関として再スタートし、道総研として総合的な研究に取り組めるよう各研究機関や民間企業等との連携に努めてきたところです。このメルマガも多方面の方々との連携の橋渡し役として、少しでもお役に立てればと思います。

さて、「北方かわらばん」は、さらに親しみやすくなるよう次号から構成を見直します。

新しい「北方かわらばん」につきましても、引き続きよろしくお願いいたします。

(古屋)

=====  
管理者からのお知らせ  
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

[http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail\\_newsletter.html](http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html)

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

---

発行：(地独)北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所